令和８年８月 26 日

加西市議会議長　中右　憲利　様

建設経済厚生常任委員長　田井　真一

# 建設経済厚生常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

１　日　程　　令和８年８月 17 日（月）～18 日（火）
２　視察先　　福岡県嘉麻市、福岡県田川市
３　参加者　　田井真一、佐伯欣子、下江一将、土本昌幸、中右憲利、深田照明、丸岡弘満
　　森元清蔵、山本局長補佐（議会事務局随行）
４　視察内容等
◇福岡県嘉麻市（8 月 17 日（月）13：30～15：00）
（視 察 項 目）廃校利用について
（視察対応者）産業振興課　原田課長
　　産業振興課　山本課長補佐
　　産業振興課　松本係長
　　産業振興課　森下
　　市議会　畠中議員
　　足白ボルダリングセンター　志岐センター長
　　カホアルペ　植村
　　議会事務局　髙橋局長補佐
　　議会事務局　姫野主任
（内　　容）別紙のとおり
◇福岡県田川市（8 月 18 日（火）10：00～11：30）
（視 察 項 目）廃校利用について
（視察対応者）建設経済部産業振興課　久冨課長
　　建設経済部産業振興課　竹志田事務主査
　　建設経済部産業振興課　河野
　　議会事務局　田中
（内　　容）別紙のとおり
５　所　感　　各委員の所感は別紙のとおり

【福岡県嘉麻市】
視察項目:廃校利用について
～「足白農泊施設カホアルペ・K-WALL」の事例に学ぶ～
〔目的〕
児童生徒数が減少する中、小中学校の統廃合を進めているが、一方で廃校利活用が大きな課題となっている。学校は地域コミュニティ、地域活性化の拠点でもあり、廃校施設に対する地域住民の思い入れは、他の公共施設に比べて大変強いため、利活用については地域住民の意見や要望を十分に踏まえた上で検討する必要がある。
現在、執行部において検討がなされているが、できるだけ地域住民の意見が反映され、地域の活性化につながるよう、先進自治体の取組み事例（経緯、手法、財政負担、利用状況、効果、課題など）を学び、議会として施策提言するため実施した。
〔内容〕
(1) 整備目的
宿泊と体験を組み合わせた観光拠点を目指し、旧足白小学校の校舎を宿泊施設・農業体験施設「足白農泊施設カホアルペ」として、体育館をボルダリング施設「K-WALL」としてリノベーションし、一体的に整備された。
(2) 背景（当時の地域課題）
人口減少、地域経済規模の縮小、宿泊施設が少ない、観光消費の市外流出、農家の高齢化・後継者不足、耕作放棄地の増加など
(3) 整備費用
カホアルペ：460,565 千円（うち国庫補助金：216,692 千円）
K-WALL：131,338 千円（うち国庫補助金：60,000 千円）
(4) 活用状況
《カホアルペ》
① 開業
令和 2 年 7 月
② 運営
当初：直営、令和 5 年度以降：指定管理者「株式会社リナシェンテ」
③ 概要
宿泊施設（２階）：客室 17 室、宿泊定員 68 名
シェアキッチン：料理教室等で利用
食事：地元の野菜をふんだんに使った食事を提供
ホール・会議室：イベントやマルシェ、会議や研修等に活用
④ 利用状況（宿泊者数） 増加傾向
令和 2 年度:524 人 令和 3 年度:939 人 令和 4 年度:1,760 人
令和 5 年度:2,092 人 令和 6 年度:3,080 人 令和 7 年度:3,301 人
⑤ 市の財政負担
指定管理料：2,200 万円/年

その他（安全確保、施設機能維持のための修繕費・点検費等）

《K-WALL》

② 開業

平成 30 年 4 月

③ 運営

指定管理者「株式会社嘉麻スタイル」

② 活用状況

床面積：680 ㎡

高さ：4.5m

総延長：46.0m

初心者から競技者まで利用可能

③ 利用状況（利用者数） コロナ禍で減少

平成 30 年度:10,733 人 平成 31 年度:1,019 人 令和 2 年度：6,620 人

令和 3 年度:6,344 人 令和 6 年度:7,507 人 令和 7 年度：6,693 人

④ 市の財政負担

指定管理料：2,160 万円/年

その他（安全確保、施設機能維持のための修繕費・点検費等）

(5) 効果

《カホアルペ》

宿泊者は毎年度増加するとともに、地域イベントや地域住民の交流拠点となるなど公共的役割を担っている。

《K-WALL》

開業後 2 年間は 1 万人を超えていた利用者数は、コロナ禍後は減少したが 6,000～7,500 人程度で推移するなど一定の集客機能を維持できている。

(6) 課題

① 厳しい収支

両施設とも利用料金収入のみでは運営できず、指定管理料の支出が必要である。K-WALL に対しては支援金も支出している。

② 政策効果の把握不足

利用者数・宿泊者数は把握できているが、市内消費・周遊・再訪者数等は十分把握できていない。また、両施設の相互利用者数も把握できていない。

③ 観光課題

市外からの来訪者の継続的な呼び込み、市内飲食店・店舗・観光施設への周遊、消費活動へつなぐ、リピーター率の向上など

(7) 改善と今後の方向性

① 収支が黒字・赤字だけでなく、経済効果と公共的効果の両面から事業評価する。

② 市外からの来訪者を継続的に呼び込み、市内周遊・消費・再訪につなげるとともに、施設収支の改善と公費負担の適正化を図る。

【福岡県田川市】
視察項目:廃校利用について
～「芸術企業支援施設いいかねPalette」の事例に学ぶ～
〔目的〕
児童生徒数が減少する中、小中学校の統廃合を進めているが、一方で廃校利活用が大きな課題となっている。学校は地域コミュニティ、地域活性化の拠点でもあり、廃校施設に対する地域住民の思い入れは、他の公共施設に比べて大変強いため、利活用については地域住民の意見や要望を十分に踏まえた上で検討する必要がある。
現在、執行部において検討がなされているが、できるだけ地域住民の意見が反映され、地域の活性化につながるよう、先進自治体の取組み事例（経緯、手法、財政負担、利用状況、効果、課題など）を学び、議会として施策提言するため実施した。
〔内容〕
(1) 整備目的
旧猪位金小学校の利活用にあたっては、単なる施設保全や従来の公共管理にとどまらず、地域課題の解決に資する新たな拠点として再構築することを基本方針とし、「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指した施設整備をされた。
他の廃校の利活用については、現状のまま売却する方針とのことであった。
(2) 背景
人口減少や若年層流出に伴う地域経済の停滞への対応が急務であったため、雇用創出や移住・交流促進を進める施策が必要であった。
炭鉱のまち田川市には、大手企業が操業していたこともあり、日常の中に音楽が根付いていたため、音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積を目指された。
(3) 整備費用
市は当初の施設改修に伴う費用 65,000 千円（地域創生加速化交付金）のみを負担し、事業拡大に伴う施設改修は、事業者が国庫補助金やクラウドファンディング等を活用して行われた。
(4) 活用状況
① 開業
平成 29 年（平成 29 年～令和 19 年　20 年間の期間を設定）
② 運営
所有権は市が有したまま、事業者に 20 年間無償貸与
運営事業者：「株式会社 BOOK」（コンセッション方式）
完全独立採算制で、利用料金の決定など自由度の高い運営が可能
③ 概要
敷地面積：19,000 ㎡
校舎：ＲＣ造 2 階建 3,518 ㎡、体育館：Ｓ造 2 階建 797 ㎡、そのた（体

育倉庫、倉庫、便所など）

④ 利用状況

「学校でつくる」…レコーディングスタジオ（レコーディング、リハーサル、楽曲編集など音楽制作に利用）

「学校で仕事をする」…シェアライブラリー（シェアオフィスとして活用）

「学校に泊まる」…ホステル（校長室をドミトリーにリノベーション）

「学校で学ぶ」…自由教室（会議、テナント、ワークショップなど多目的利用）

「学校で遊ぶ」…中庭 BBQ・リラックスルーム（無料開放：ガーデンプレイスでは、バドミントンやドッジボール、元職員室では、交流教室、卓球台ボードゲーム、マンガ、テレビゲームなど）

⑤ 市の財政負担

運営権方式のため、指定管理料の負担なし

運営権者が施設の維持管理を行うため、市の財政負担は極力軽減

(5) 効果

雇用創出…開業以来延べ十数名が採用

地域のにぎわい・関係人口の創出…年間 1 万人以上が利用、年間 800 人以上が宿泊、月平均 17 人の長期滞在利用

(6) 課題

① 利便性の向上

施設が最寄駅から遠い場所に立地、交通利便性の低さから、オフィステナントや長期宿泊者の契約件数が低調な状況が続いている。

② 経営状況の安定化

運営努力などにより、開業 6 年目に単年度黒字を達成したが、音楽・映像分野などの売上には波があり、現下の物価高の影響を受け、依然として不安定な経営状況が続いている。

(7) 今後の方向性

① 運営事業者においては、テナントや長期宿泊者の固定収入を確保しつつ、魅力的な企画や情報を提供し続ける努力が必要である。

② 市としては、運営事業者と連携を取りながら、最終的には運営事業者が自ら収益を生み出すに至るよう最大限の支援を行う。

〔所感〕　田井真一

【福岡県嘉穂市】　廃校利用について

「カホアルペ」「K=WALL」両施設を視察し担当者の話を伺う中で、特に感じたことは、廃校となった施設を単に保存・活用するのではなく、地域の自然・食・文化・スポーツなどと組み合わせ、新たな価値を生み出し、地域経済の活性化や地域のにぎわいにつなげようとされている点である。

加西市においても、廃校の利活用については、地域住民や民間事業者などの意見やアイデアを取り入れながら検討が進められているが、重要なのは、地域経済への波及、地域の活性化、交流人口の増加など施設がもたらす効果を見通すことが大切である。

廃校を「負の遺産」として捉えるのではなく、地域の未来を創るための「新たな資産」として捉え、民間活力や地域の知恵を最大限に活かした利活用を進めるべきである。

視察した両施設は、地域の活性化、宿泊者・交流人口の創出などで一定の効果を生み出しているが、一方で、安定した収支、地域経済への波及、市の財政負担などにおいては課題も少なくなく、また、視察先と本市とでは、産業や地域の特性、環境も異なるため、そのことも踏まえた中で、先進事例を参考としながら、将来的な課題についても十分分析しながら進めることが重要である。

今回の視察で習得したことを参考に、施策提案をしていきたい。

【福岡県田川市】　廃校利用について

「いいかね Palette」は、旧猪位金小学校という地域住民の思い出が詰まった場所を、単に保存するだけでなく、音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積を目指す拠点として整備された。そこでは、「つくる」「仕事をする」「泊まる」「学ぶ」「遊ぶ」など、時代のニーズに合わせた新しい施設利用を生み出し、それを地域課題の解決につなげていこうとされている点は、大変参考になった。

また、運営方式を指定管理者方式ではなくコンセッション方式とすることにより、市の指定管理料の負担がなくなるとともに、当初の施設改修においても、市は地域創生加速化交付金を活用した 65,000 千円のみを負担し、事業拡大に伴う費用は運営事業者が独自でクラウドファンディングなどを活用されるなど、市の財政負担を極力抑えられていることに大変関心を持った。

廃校の改修や利活用には多額の費用がかかるため、できるだけ市の負担を抑える手法や活用方法を検討することが重要である。この事例は大変参考となった。

さらに、田川市は、旧猪位金小学校以外は、現状のままの売却を想定されておられる。これは最も財政負担を伴わない方法であるが、申し出る事業者がどれくらいあるかは難しいところである。

〔所感〕 佐伯欣子

【福岡県嘉麻市】 廃校利用について
観光客受け入れの土壌がある地域として、足白地区の旧小学校を利活用され、宿泊と体験を組み合わせた観光拠点として整備されている。整備前には地元地域の農泊推進協議会との話し合いが行われ、カホアルペという宿泊施設は元々農泊施設として始まっている。カホアルペで昼食をいただいたということもあり、地元の議員に説明していただいた。地域の交流の場としても使われており、明るく、居心地の良いスペースに利用者が増加しているのも頷ける。そして、今回一番気になっていたのが、関係人口を増やす目的で作られた K-WALL という体育館を利活用したボルダリング施設。説明のなかで指定管理者がかなり努力し集客されていると感じた。課題は市からの支援金も支出されており、利用料金収入による黒字化をどうしていくか。また、両施設の相互利用を調査し、継続的に来訪者をどう呼び込むかである。しかし、重要なことは、『歓迎』と書かれた資料からも読み取れる、一人でも多くの方に来ていただきたいという強い思いである。

【福岡県田川市】 廃校利用について
旧猪位金諸学校を利活用し、「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指した拠点として作られた『いいかね Pallette』。なぜ、音楽コンテンツを選択されたのかという疑問に、田川市の歴史と音楽が関わっている。炭鉱から生まれた民謡や現代の音楽にも精通し、独自の音楽が根付いているということであった。内容はレコーディングスタジオ、シェアライブラリー、ホステル、自由教室、そして、地域の方々が無料で使える卓球台等を備えたリラックスルームがある。それだけではなく、施設の所有権を市が有したまま、運営権を民間事業者に設定する運営方法として、公共施設等運営権方式を導入されていることだ。これは、民間事業者の自由度が高く創意工夫が生かされる事業運営ができる利点があるが、課題として固定収入の確保と運営事業者が自ら収益を生み出すまでの最大限支援を行うことである。担当者からこの運営方法は元市長が地域に合った方法をと、取り入れられたとお聞きした。余談ではあるが、時間になると、市役所から炭坑節が流れていた。歴史を重んじ現代に繋いでいると改めて感じた。

〔所感〕 下江一将

【福岡県嘉麻市】 廃校利用について

整備手法については、地方創生加速化交付金や農山漁村振興交付金などの財源を確保しながら、計画的に整備を進めている点が印象に残った。運営面では、カホアルペが学生の合宿など、宿泊を主な収益事業とし、黒字経営を続けている。一方で、九州最大級のボルダリング施設K-WALLについては、指定管理料による市の財政負担がなければ運営が難しいという課題も確認できた。

また、地域住民が集う盆踊り大会や各種地域イベントの会場としても利用されており、収益に直結しない地域活動も含めて、地域に開かれた交流拠点として機能している。こうした地域との関わりが、近隣の観光地である果樹園などへの周遊や、地域への集客にもつながっていることを確認した。

本市においても、今後の廃校跡地利用や公共施設整備を進める際には、施設単体の「収支が黒字か赤字か」だけで判断するのではなく、周辺地域への経済波及効果やコミュニティの活性化などを含めて評価する視点が必要であると感じた。

施設がもたらす「周辺地域への経済波及効果（観光周遊等）」や「コミュニティの維持・活性化」といった、定量的な指標だけでは捉えにくい公共的な価値を評価するとともに、嘉麻市が導入する「アンケート等の数値化による政策効果の検証」や「公費負担の適正化」といった検証の仕組みも参考にしながら、持続可能な形で地域に還元できる拠点づくりを進めていく必要があると考える。

【福岡県田川市】 廃校利用について

コンセッション方式を導入した事例として、自由度のある運営体制が跡地利用の可能性を広げていることを実感した。光熱水費や広大な建物の維持管理費を事業者自身で負担し続けることは容易ではなく、黒字化を達成できていないという現状からも、その難しさがうかがえた。

一方で、クリエイターが集まり、現在では知名度のあるラジオコンテンツが生まれるなど、地域に文化的な波及効果が生まれている。地域外から継続的に人を呼び込む「関係人口」をつくっている点は、行政としても高く評価している成果だと感じた。

また、この施設は音楽産業の創出という明確な個性を持ちながら、地域から孤立しているわけではない。体育館やグラウンド、食堂などを無料開放することで、子どもから高齢者まで地域住民が日常的に利用できる場所となっており、その活用方法は本市においても参考にすべき点である。

本市が今後、廃校跡地利用において民間への運営権設定を検討する際に大切にすべきだと感じたのは、事業者が長期的に挑戦を続けられる「事業者選定の視点」と「制度設計上の余白」である。

最初から事業の方向性を細かく決めすぎると、社会や市民のニーズの変化、予期せぬ状況に対応することが難しくなり、結果として事業者の継続を困難にする可能性もある。社会や市民のニーズに合わせて柔軟に方向転換できる「余白」を、施設を取り巻く環境に応じて計画段階から制度設計に持たせておくことが重要である。

本市においても、民間事業者の持つ柔軟な発想や実行力を生かしながら、多くの方に利用され、地域にも価値を還元できる拠点をつくるためには、施設の完成形を行政がすべて決めるのではなく、事業者が地域や利用者と関わりながら変化していける仕組みをつくることも必要であると感じた。

〔所感〕 土本昌幸

【福岡県嘉麻市】 廃校利用について
2020 年に開業したカホアルペ・K-WALL の取組について
指定管理として取り組まれており、築 25 年の校舎を活用してカホアルペでは宿泊や食事、宴会等で利用されて現在黒字経営となっている。特に団体での利用に力を入れており、登山や沢登りのコースなどは季節に応じて利用者が選択できるため、需要が見込めると思われる。また、K-WALL は常設のロッククライミング施設があるため、子どもから高齢者までが楽しめるが、施設管理経費が多額で市が年間約 312 万円負担している。ロッククライミング施設は特に安全を確保する必要があり、協会の管理規定を守るために毎年メンテナンス費用が発生し、施設の特異性から黒字経営については難しい。また、専用施設では災害時の避難場所としての活用は可能だが、他の競技などに利用できないため、地域での利活用は難しいと考える。

【福岡県田川市】 廃校利用について
2017 年に開業したコンセッション事業「いいかね Palette」の取組について
音楽を中心とするコンテンツ産業の創設・集積を目指して始めた施設で、実施計画策定から 3 年で事業を開始している。コンセッション事業のため、運営等については独自に実施。資金不足が発生したが、クラウドファンディングで調達して基本的には市からの持ち出しはない。但し、校舎が築 55 年経過（契約時 45 年）しており、今後は配管や配線等で修繕の可能性があるとのこと。尚、今後発生する廃校については全て現状のまま売却する方針。
田川市は、昔は炭鉱の町で大企業が文化を持ち込んだ影響で市民が音楽に興味を持つ素地があり、コンテンツ産業の創出や雇用の拡大、移住・交流の促進を図る構想を掲げている。

今回視察した両市とも災害が比較的起きにくい地域である。加西市は、それに加えて 2 本の高速道路があるため、都市圏からの利便性に優れている。現在進行中の学校跡地利用計画においても地域との充分な協議を行い、また当市の利点を生かして取組を進める必要があると考える。

〔所感〕 中右憲利

【福岡県嘉麻市】 廃校利用について

・他にも廃校となっている学校はいくつかあるということだが、旧足白小学校を観光拠点施設として整備することを選んだ理由は、①雄大な嘉穂アルプスなど自然資源が豊富　②九州リンゴ村など既存の観光資源を生かせる　③地域に観光客受け入れの土壌がある等。

・カホアルペという宿泊、レストラン、ラウンジ施設を指定管理で運営しているが、旧小学校自体が比較的新しく、リノベーションによってさらに心地よいスペースになっている感じがした。

・自然が豊かで、沢登り等のアクティビティが楽しめる、又レストランの食事も地元の食材を上手に使ったメニューで、2,000円の少し上等のランチを食べたが、大変おいしかった。

・特に夏休みには子供たちが合宿に来るということで、二段ベッドがある部屋などは喜ぶのではないかと思った。

・またここは地域イベントにも活用され、地域住民の交流拠点としての役割を担っていて、収益にはならないが、地域の暮らしやすさに貢献していると思う。

・特にいいアイディアと思ったのは、体育館を利用したK－WALLで、ロッククライミングの練習が出来、大きな大会も開くことが出来る施設。

・小さな小学校の体育館でも色々なタイプのロッククライミングを体験できるようになっていて、初心者から熟練者までが楽しめ、トレーニングも出来て人気があるとのこと。メンテナンス等で年間コストが発生するということだが、それほどの金額でもなかったと思う。

・どちらも指定管理で運営しているが、市からは相当な額の指定管理料が出ているとのこと、しかし宿泊者数も年々増えていっているということで市外からの関係人口を増やし、地域のまとまりにも貢献しているので、大変いい施設、仕組みが作られていると思った。

【福岡県田川市】 廃校利用について

・旧猪位金小学校を活用して「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指した施設として「いいかねPalette」として 2017 年 4 月にスタート。

・福岡県はもともと音楽が盛んで、多くの有名歌手や有名バンド等を輩出している。田川市及びその周辺でも音楽活動をしている若者たちが多いということで、地域の特性を活かした拠点づくりをメインにしていていい取り組みだと思った。

・レコーディングスタジオ、コントロールルーム、リハーサルスタジオ等があり、普段は防音設備が整った部屋で楽器等の音楽練習をする人たちが多いということ。

・校長室をドミトリー（相部屋スタイルの宿泊施設）にしたり、ランチルームや教室をシェアオフイス等ビジネス拠点として使ったり（有料）、地域の人たちがランチルームやガーデンプレイス、元職員室等を無料で、勉強、スポーツ、遊び等として使い地域交流の場となっている。

・小学校が廃校となって寂しくなった地域を、音楽拠点、ビジネス、地域交流拠点等で

盛り上げるいい施設だと思った。
・運営方法は他の所とは少し違って、施設の所有権を市が有したまま、施設の運営権を民間事業者に任せるという方法。
・今運営している㈱BOOKは、この施設運営のために作られた民間会社（契約期間20年）。㈱BOOKと市が施設のコンセプト等を考えて改修工事をしたということ。
・民間会社の創意工夫が最大限に生かされる効果を期待してこの方式を導入したということだが、指定管理制度を利用する所が多い中、このような形の運営方法を考えた所がユニークだと思った。

〔所感〕 深田照明

【福岡県嘉麻市】　廃校利用について

廃校となった学校をいかに有効活用し、その地域の活力をどのように維持向上させていけばよいのか、加西市においても大きな課題となっている。

嘉麻市の旧足白小学校の廃校利用は平成 30 年4月、体育館にボルダリング専用施設 K-WALL を開設、令和 2 年7月、校舎に体験型宿泊施設カホアルペを開業、地域の観光拠点として観光消費の拡大、地域内の雇用創出など地域経済の活性化と関係人口増加を目的に運営されている。

ボルダリング施設は九州内でも最大級の規模で開設当初の利用者は年間1万人を超えていたが、令和2年のコロナ禍で 6,000 人台に落ち込み、令和6年度からやっと 7,000 人台に戻りつつあるとのことであった。ボルダリングはスポーツ競技としてはマイナーなので観光客がリピーターとして、何回も来られるようにするのは少し難しいのではと感じた。

K-WALL には市から年 2,160 万円の指定管理費が支出されているが赤字傾向にあり、利用者を増やすために、近隣市の小学校にボルダリング利用割引チケットなどを配布するなど広報・宣伝に努めていると聞いて、頑張って頂きたいと思った。

一方、宿泊施設カホアルペは客室もきれいで地域食材を使った食事も美味しく、令和7年度には宿泊者 3,301 人と順調に伸びてきている。しかし、市からの指定管理費 2,200 万円で何とか黒字という現実は厳しく、近くの九州リンゴ村や沢登り体験ツアーなど地域の観光資源をもっと活用して、より集客力を高めていくことが求められていると感じた。

加西市でも廃校に進出する企業などの経営が安定する仕組みをつくれるかどうかが事業継続に大きく影響してくるので、行政、関係者、地域住民との慎重な対話をつづけて頂きたい。

【福岡県田川市】　廃校利用について

田川市の廃校利用である「いいかね Palette」事業の基本コンセプトは「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指しているとのことで、レコーディングスタジオやリハーサル室、楽曲編集室の充実を図られていた。なぜ、音楽がメインなのかと聞くと嘉穂郡出身の井上陽水、久留米市出身の藤井フミヤなど、田川市近郊には昔からシンガーソングライターや歌手が多く集まる風土があるとのことで納得した。

経費的には市から開設時に施設改修整備費 6,500 万円の支出のみで、毎年の指定管理費支出は無く、事業者は 2017 年から 2037 年の 20 年間の運営権を付与され、自主的にクラウドファンディング等を利用しながら施設整備や運営をされている。その事業者は施設開設時に吉本興業のクリエイターや音楽プロデューサーなど、音楽や芸術を守りたいという人々数名で組織され、ほぼ熱意のみで続いている状況のようであった。収入はスタジオ利用料金や部屋貸しテナント料、合宿で来る大学生などの宿泊料金などで何とか黒字であるが、利益優先の民間会社ならすぐに撤退していたのではと思った。

そんな中、地域連携として運動場や体育館などの無償開放、施設内食堂での地元野菜の活用など地域とのつながりを重視する姿勢をとられているのが素晴らしい。

加西市においても、学校は地域の歴史と住民の思いが詰まった価値の高い場所であるので、たとえ廃校になっても、地域の方々が気軽に集まれる場所として、その地域の自然や人々の生活に根差した活用方法をしっかりと考えていかなければならない。そのためにも、地域住民の声をしっかりと聞き、共に考えていく行政対応をつづけて頂きたい。

〔所感〕 丸岡弘満

【福岡県嘉麻市】 廃校利用について

廃校を活用した足白観光拠点施設「体験型宿泊施設カホアルペ」および「ボルダリング専用施設 K-WALL」を視察し、担当課や指定管理者および地元市議で産業建設委員会の畠中博文委員長より整備経緯、運営状況、課題について丁寧な説明と率直な意見も伺えることができた。両施設の整備には、総額約 5.9 億円（国庫補助金：約 2.8 億円）が投じられ、現在も市が安全確保や施設機能維持管経費や指定管理料約 2,200 万円など公費負担が継続している。収支面のみを見れば厳しい状況であり、黒字化には至っていないことが確認できた。

一方で、廃校活用という観点からは、地域住民との交流拠点として機能し、盆踊りなど地域イベントの開催、災害時の避難場所としての役割も果たしているなど、公共的価値が高いことを実感した。また、カホアルペでは市外からの来訪者を呼び込む努力や仕組みを考え、K-WALL では競技者から初心者まで幅広い利用をしてもらうに指定管理者の工夫や努力が随所に見られた。地域の自然資源や既存観光資源と組み合わせた段階的整備は、地域の魅力を高める取り組みとして大変評価できる。

今回の視察を通じ、廃校利活用は単なる収支だけでは測れない多面的な価値を持つ一方、持続可能な運営の難しさも改めて認識した。加西市においても、地域連携や公共的役割を踏まえた廃校活用の在り方を検討する上で、大いに参考となる事例であった。

【福岡県田川市】 廃校利用について

廃校を活用したコンセッション事業「いいかね Palette」（旧猪位金小学校）は、株式会社 BOOK が市と 20 年間の公共施設等運営権実施契約を締結し、クラウドファンディングで約 2,200 万円を調達して改修を行うなど、民間の発想と機動力を生かした取り組みが全国的にも注目されている。一方、市も国の交付金を活用し、約 6,500 万円の初期改修を負担し、さらに赤字のため、旧校舎に係る維持管理費用は支援している。

施設は音楽コンテンツ制作と滞在機能を併せ持つ複合施設として、多様な関係人口の創出を目指し、開かれた施設として地元住民の利用はあるが、深く交流が図られているのかという印象は薄かった。また、自走型運営を掲げつつも経営の黒字化は一度のみであり、収支の安定化には課題が大きい。民間経営であっても廃校利活用の難しさとリスク分担の在り方が問われている。

しかし、地域で長年培ってきた「音楽文化」を核に据え、他市にはない独自性を持つ拠点として再構築している点は高く評価できる。流行を追うのではなく、地域に根付いた文化を基盤に事業を展開している姿勢は印象的であり、幅広い層が訪れる場となっていることに感心した。今回の視察を通じ、廃校を活用した民間事業の可能性と難しさの双方を実感し、加西市の廃校利活用の検討にも参考となる事例であった。

〔所感〕 森元清蔵

【福岡県嘉麻市】　廃校利用について

築 25 年の小学校の廃校を、足白農泊施設「カホアルペ」として運営されている。体育館はボルダリング施設「K-WALL」として利用されている。令和 5 年度以降は指定管理で運営されていて、企画力によってイベントも増加し利用者も増えているようである。ボルダリングも発想がよく、九州最大級の設備にしたのがすばらしいと思う。

九州りんご村という既存の観光資源を生かし、嘉穂アルプスの自然資源を生かしたイベントも企画して、体育館のボルダリング施設の利用者も含め、宿泊者が年間約 3,000 人とうまく運営されている。今のところ黒字経営とのこと。

指定管理費は毎年負担にはなるが、地域の行事にも施設が利用されていたり、市外からの利用者によって地域活性化にもなっているし、市内周遊、消費拡大への将来性はあると思う。

人を引き付けるものを見つけ、地域資源を生かして企画をしていけば、廃校で地域活性化をしていけることを確信できた。

【福岡県田川市】　廃校利用について

旧猪位金小学校を「いいかね Palette」として利用されている。
市は、国の交付金等を活用して 6,500 万円の負担で施設全体の基本改修を行い、後は(株)BOOK に貸与し、この会社が本格的なレコーディングスタジオや作業空間を整備し、クリエイターの滞在や制作拠点となっている。

地元の住民も体育館や運動場を自由に使って、日常的な交流の場にもなっている。2017 年より年間約 1 万人が利用し、年間 800 人が宿泊、月平均 17 人の長期滞在利用もある。開業 6 年目に単年度黒字を達成されている。市の負担をおさえて、うまく廃校を活用されている。(株)BOOK を設立から支援して、今ではその創業者がユーチューブ等で全国に PR して、多くの事業やイベントを展開されている。この会社の持続可能性を確保する事が市にとって重要な事であると思う。

加西市においても、施設貸与方式で民間会社に貸与し、その会社の自主運営によって自走していけるような会社を、立ち上げから支援して育てていければ理想である。加西の資源、文化面での特色を生かして、市外からも利用してもらえるような施設運営を求めていきたい。

◇福岡県嘉麻市（8 月 17 日（月）13：30～15：00）









◇福岡県田川市（8 月 18 日（火）10：00～11：30）







